

平成24年度 長野県農業大学校 評価表

評価 A: 目標を上回った B: ほぼ目標どおりできた C: 目標を下回った

学校教育目標	重点目標(中・長期目標)	総合評価	評価	
高度な専門知識、技術ならびに幅広い視野と豊かな人間性をもった、明日の農業・農村を担う優れた人材を育成する。	理論と実技を同時に学ぶ実践型の教育により農業技術の高度化・経営の専門化に対応する知識、技術を習得させるとともに、寮生活や自らテーマを定めて行うプロジェクト学習等により他者との協調・自己の確立等の社会性を涵養し、21世紀の農業・農村を担う優れた人材の養成を目指す。	カリキュラムは実践型の編成とするなかで、学生の目的意識や基礎学力により習熟度に差がみられるものの、現地体験実習、プロジェクト学習などを通じて実践的な技術や知識の習得は概ねでき、目標に沿った養成が図られた。 しかし、一部学生において授業の欠席、態度の悪さなどが目立ち、寮生活を含め社会人としての教育的指導が必要と思われる。 なお、本年2月5日現在の総合農学科の進路状況は、就農(法人就農含む)17.6%、就職54.9%、進学5.9%となっている。 また、今年度、県において本校総合農学科卒業生の就農率低迷などが課題としてあるため、「長野県農業大学校のあり方に関する検討会」を設置し、本校の教育のあり方、輩出すべき農業者像等の検討がなされ、今後の方向が示された。	B	
	今年度の重点目標	成果と課題	改善策	
	本校教育方針に基づく授業実施計画を作成し、学生の満足度が高い、きめ細かな授業・実習を行う。	学生の習熟度に応じたきめ細かい授業・実習を実施し、学生の期待に応えられた反面、一部の学生に欠席が目立ち、講座開設側の配慮が学生の満足度に結びつかなかった面もある。	常に授業研究を重ね、学生のレベルに応じたきめ細かな授業・実習を心掛けていく。また、欠席することの不利益を論じ学習意欲の醸成を図り、満足度に結びつくよう研究を重ねていく。	B
	寮生活を支援するなど教育環境を整備し、社会適応性のある高い人格の育成に努める。	本校の特色としている全寮制によるメリットが十分発揮できるよう施設環境の整備、寮宿直、自治会活動支援などを行った。しかし、一部の学生に社会的規範が守れない、生活態度が好ましくない者がいる。	教授の意識を統一し、あらゆる機会を通じて社会人としての自覚を促す指導を重ねて行う。必要に応じてメンタル面など多様化する学生気質にも対応できる体制を整備する。	C
専門的かつ実践的な知識の修得と、就農意欲の向上を図るセミナーを行う。	全国的に著名な講師の招聘によるセミナーを開催し、高い啓発効果があったと考える。しかしながら、学生の吸収能力には個人差があるため、講演内容の活用方法が課題である。	引き続き、セミナーを実施するが、事前学習や事後学習へ発展させていく工夫を検討する。	B	

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	改善策	評価
教育活動	学習指導	授業実習内容の充実を図る	・学力の差に応じた授業を実施することができ、全体の学力向上が図れたか。	学力差が大きいため、数学と英語でクラス分けを実施しきめ細かな授業を行った。また、情報処理論や特別講義で、文章表現・要約の仕方や漢字の書き取りの演習を行い学習意欲の喚起を図った。	引き続き、学力と意欲向上が図れるよう、授業内容の工夫に努めていく。	B
			・プロジェクト学習は学生の自主性・主体性が発揮できたか。	プロジェクト課題の設定や実施について、自主的・主体的に取り組むよう指導を重ねたが、一部に自主性・主体性の欠ける学生がいた。なお、2年生の代表が関東ブロック農大協議会の実績発表会で1位となり、全国発表会に推薦された。	1年生に対して、2年生のプロジェクト学習の取組状況を早めに見学させ、関心を高めていく。	B
			・各種資格試験や検定試験を奨励し、学生の学習意欲を高められたか。	車両運転等技能資格の受験意欲は高く合格率も高い。一方、毒物劇物取扱者試験や日本農業技術検定試験の合格率が低いため、模擬試験を実施し学習意欲を喚起した。その結果、毒物劇物試験の合格率が23年度22.7%から24年度32.5%へ、日本農業技術検定で23年度34.4%から24年度47.4%に向上した。	引き続き、資格試験ごとの模擬試験を実施するなど合格率の向上を目指し学習意欲の向上を図っていく。	B
	効率的・計画的な農場利用で学習効果を高める	効率的・計画的な農場利用で学習効果を高める	・十分な専攻実習やプロジェクト活動ができるほ場面積やハウス等を用意できたか。	ほ場面積やハウスの数等については用意できたが、人数の多い果樹コースでは学生数に見合った教材の確保に苦慮した。	人数に見合った教材が確保できるよう増反を検討する。	B
			・各コース別の年間作付け計画に沿った農場管理ができたか。	コースごとに、ほぼ計画どおりの管理ができたが、一部湿害、鳥獣害の発生や、施設の破損、資材の劣化がみられた。	果樹園の排水対策、防鳥網の設置など生産安定対策や施設の定期的なメンテナンスのための予算確保が必要である。	B
			・学生主体とした休日の農場管理を実行できたか。	ほぼ実行できた。	当番の周知を学生に徹底し、継続する。	B
	進路指導	個々に適した進路選択、決定、実現を図る	・個別面談や個人指導を行い、進路決定及び実現のために適切な支援ができたか。	1年生は10月、2年生は4月に保護者を交えた3者面談を実施し進路希望を把握した。また、ジョブカフェ信州や民間就職コーディネーターを講師として、就職や就農先の進路決定に向けた全般的な支援を行うとともに、学生が相談しやすい体制づくりに努めた。さらに、希望者には模擬面接の演習や履歴書・エントリーシートの書き方の指導・添削を行った。	引き続き、現在の取組を行うとともに、1年生に対しては、将来の進路について早めに考えるよう促し適切な支援に努める。	B
			・定期的に進路希望や活動状況を把握できたか。	2年生の進路状況を毎月把握し、教授間での情報共有を図り、学校全体での支援体制を整備した。	引き続き、進路活動状況の把握に努め、進路希望に応じた適切な支援を行う。	A
			・就農率向上セミナーなど進路実現のための授業等を計画的に実施できたか。	セミナーを4回開催した。このセミナーに喚起され、法人就農を志向する学生も出てきた。また、進路実現のため「就農コース」「就職コース」ごとの演習授業(特別教養演習)を計画的に実施した。	引き続き、セミナーを開催するとともに、特別教養演習を通じて学生の希望する進路の実現を目指す。	B

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	改善策	評価
教育活動	進路指導	就職・進学情報の提供	・学内掲示板、HRなどを活用した求人情報の提供がなされたか。	農業関連企業や農業法人の求人情報を収集し、掲示板やホームページで周知した。	引き続き、情報提供に努める。	B
			・法人就農リストの作成や法人との意見交換会等を通じ就農率向上への取り組みができたか。	法人就農リストを作成し、アンケート調査や農業法人協会との意見交換を実施するとともに、非農家の就農希望者に対して、法人就農や里親研修に導くことができた。	引き続き、農業法人協会等との情報交換を行うとともに、就農希望学生へのきめ細かな情報提供などの支援を行っていく。	B
	生活指導	社会的規範意識を高め、基本的な生活習慣の育成に努める	・特別講義や交通・防犯・健康講座などを通じて、生命尊重や社会的ルールを守る意識を高めることができたか。	学内各教授による特別講義や交通防犯講座、保健健康講座、救急救命講習、消防防火講習などを計画通り実施し意識向上を図った。 一部学生に基本的な社会規範や生活態度ができていない者もいるが、実際、街路において交通事故傷者の応急救援を行った学生がいるなど一定の成果があった。	各教授による特別講義の内容やルール指導については、倫理観を一層高めるよう検討を続ける。 また、学年担当教授会議を週1回開催し、学生毎の生活状況等について情報共有を図り指導方法を適切なものとする。	B
			・寮生活や自治会活動を通して、集団生活や社会における自分の役割など、社会人としての心構えを学ばせることができたか。	各教授による寮宿直指導を4月に7回、7月6回、8月10回の計23回実施、並行して自治会運営指導を行った。地域活動への参加、寮周辺の花壇づくりなど美化活動、降雪時の雪かきなど自治会、寮生の自主的な活動も見られる一方、一部学生の生活の乱れ、授業欠席の常態化などもある。	学年担当教授会議を通じてお互いの指導方法を的確なものとするともに、寮生活の効果的な指導方法を再検討する。 また、自治会活動の自主性を向上させるための指導方法を検討する。	C
		自他の生命を尊重する精神を養い、豊かな心を育成する	・1年生と2年生を同室とし、先輩・後輩の関係を学び、他人を尊敬し思いやる心を育てることができたか。	5か月間の1、2年同室により、多くの学生は先輩後輩の良好な関係を築き、社会人としての基礎を身に着けつつある。一方、部屋の組み合わせによっては、先輩学生から好ましくない生活習慣などが伝承されることもある。これらのフォローを各教授が当たっている。	全寮制の廃止、1、2年同室制廃止の意見もあるが、逸脱行為に対しては厳しく、かつ、学生の自覚を促す指導を行いつつ、同室制を継続実施する。 心の悩みに対するカウンセラーを配置し、学生を支援する。	B
	教育設備の充実	農業機械や施設機器の充実	・予定された農場実習等の農作業に必要な機械・設備は充分確保されているか。	農場実習等に必要な機械・設備は確保されているが老朽化が目立ち、適宜修理をしながら使用している。 厳しい財政状況下ではあるが、緊急雇用創出事業を活用したハウスの修繕を行った。	計画的な機械等の更新と、新コース設置に伴う施設整備の予算確保に努める。	B
			・農業機械・施設・機器の適切な管理運営は行われているか。	農業機械、機器等すべての備品を再確認し、使用できない機械類の廃棄や使用責任者変更など備品台帳の整備を行った。	使用できない機械の廃棄等適切な管理運営に努める。	B
			・実習棟・機械庫等は利用計画に沿って整備・利用されているか。	適正に管理、利用している。	引き続き、適正管理に努める。	B
		学校用地や施設の適切な維持管理	・農場以外の学校用地や施設の維持管理が適切に行われたか。	学生寮の浴槽濾過機設置工事及び緊急雇用創出事業を活用した支障木の伐採、剪定など施設・環境整備を実施することができた。 また、緊急雇用創出事業で本館教室の床修繕、天井の張り替えなどを行った。	引き続き、緊急雇用創出事業を活用するなど、未着手の本館、共用棟、学生寮の内壁塗装などを実施し、施設の維持管理に努める。	A
	学校運営	学生確保の活動	・学生募集・オープンキャンパスのポスターを作成・配布し、農業大学の関心を高めることができたか。	県内の高校及び県外の実績のある高校に、学校案内、試験案内及びポスターを配布し、本校の学校方針、特色等をPRし、学生確保を図った。	これまでの広報資料に加え、新たなコース設置を踏まえたDVDなどの広報資料を作成し、PR活動を強化する。 県内外で開催される就農相談会への参加など、新コース学生確保に向けた取り組みを推進する。	B
・農業高校に対し、会議等あらゆる機会を通して情報を提供できたか。			農業高校進路指導担当教諭会議の開催や県高校校長会農業部会への出席など情報提供・交換を行った。また、本県で開催された日本学校農業クラブ全国大会では、会場のビックハットに本校のコーナーを設置し情報発信した。	引き続き、あらゆる機会を通じて情報を提供していく。	A	
・県内高校への訪問活動を行い、進路担当教諭の理解を深めると共に、生徒にとって必要なアドバイスができるよう情報提供を行ったか。			職員が分担し県内高校60校を訪問し、進路担当教諭等と情報交換を実施した。また、各高校等で開催される進路ガイダンス(民間企業主催)に参加し、本校の特色はもとより生徒に応じた情報提供を行った。	継続して情報提供を行っていく。	B	
ホームページの充実を図る		・入試案内、行事等を適時に紹介するなど、積極的に大学のPRを行うことができたか。	研修部(小諸市)の行事を含め適時の掲載に努めたが、さらに更新機会を増やす必要がある。	年間の記事掲載計画を立て、あらかじめ執筆を依頼することにより、学校行事を始め、様々な活動状況の紹介を計画的に掲載し更新機会の増加に努める。	B	
その他		予算執行の適正化を図る	・計画的な予算執行と無駄を無くすため、農場はコース別に、管理運営は費目別に執行状況を管理できたか。	校内予算委員会を随時開催し、コースごとの執行状況や農機具修繕の把握など予算執行に関する職員間の情報交換をすることで効率的な予算執行に努めた。	引き続き、効率的な予算執行に向け連携していく。	B